

(2) 校内研修計画

1 研究主題について

「自ら学び、考え、表現できる児童を育てる指導の工夫」

2 研究主題を設定した背景

(1) 今日の課題から

グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっており、これからを生き抜く子どもたちには幅広い知識とともに、柔軟な思考に基づく判断や、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存など、変化に対応する能力が求められている。すなわち、このように大量な情報が生まれ、淘汰されていく社会の中では、知識の量や情報をどれだけ知っているかということのみならず、それらを活用する力が一層求められ、社会にある問題を自分のこととして捉え、答えのない問題に直面しても他者と協働し、話し合いを重ねながらよりよく解決しようとする態度と力が必須の力となると考えられる。

また、近年の国内外の学力調査の結果などから、我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題が見られることが指摘されている。

このようなことから、学校教育において、学び得た知識や情報を基盤としながら、自ら考え、判断し、表現する力を育てていくことが必要であると考えます。

(2) 本校の教育目標から

本校では、教育目標として、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を掲げている。また、歴史的に培われてきた須古三近堂の教学精神「知・仁・勇」を、現代社会に照らして「正しく」「優しく」「元気よく」とし、児童の教育に反映するように努めている。この「知」のめざす児童像としてあげている「進んで学び、創造する子ども」は、自分の考えをもち、進んで表現する姿をめざしている。特に、本年度は、この児童像に『主体性＝自分（たち）で考え行動する』を重点課題として掲げている。

本研究主題に沿った教育活動を推進していけば、学び得た知識をもとに自分で考え、進んで表現する力の育成が図られ、本校教育目標の具現化にもつながると考える。

(3) 児童の実態より

本校は、白石町の北西に位置している。平成17年1月に、三町（旧白石町、旧有明町、旧福富町）が合併し、新「白石町」となった。その白石町の中でも学校の規模としては一番小さく、全ての学年が単学級で、特別支援学級の2学級（知的障害、自閉症・情緒障害）を合わせて8学級の小規模校である。本校児童は、明るく素直で何事にも一生懸命に取り組むことができる。三世同居の家庭が多く、家庭の教育力もしっかりしている。家庭や地域の学校への関心も高い。

真面目で、決められたことは最後までやり通すことができる反面、積極的に課題を見つけ、自分で判断し、考えや思いを表現することについては、十分とはいえない。

平成29年12月実施の県学習状況調査の結果では、ほぼ全ての学年、教科で県平均を上回った。しかし、領域別に見てみると算数の「考え方」、国語の「書く」、社会「思考判断」など、おおむね達成を下回った領域もあった。これらの問題を見てみると、自分の考えを説明したり、まとめたりして表現するものが多かった。このことから考えると、基礎的・基本的事項の習得は十分にできているが、それを自分の言葉

で表したり、自分の考えを説明したりする力はまだ十分ではないということが考えられる。

また、全国学力学習状況調査の意識調査を見てみると、本校の課題となる次のような結果が見られた。

「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦をしていますか」……「当てはまる」20%（県28%）

「友だちと話し合う時、友だちの考えを受け止めて自分の考えを持つことができますか」

…「当てはまる」20%（県42%）

他にも、授業で学んだ内容を他の学習や普段の生活に生かしているか、自分で計画を立てて学習しているかの項目でも県の結果を下回った。

このように見てみると、本校の児童は、与えられた課題や問題についてはしっかり取り組むことはでき、基礎・基本の力は身につけているが、自分で積極的に物事にに関わり、主体的に物事に取り組んだり、進んで自分の考えや思いを表現したりすることについてはまだ十分ではないことが分かる。そこで、本校の教育課題を、①主体的に物事に関わる力の向上、②判断力・思考力・表現力の向上、③コミュニケーション能力の向上と捉え、児童が主体的に学んでいく授業をめざし、その工夫と改善に取り組んでいくことが必要であると考ええる。

(4) これまでの研究から

本校は昨年度より、研究主題「自ら学び、考え、表現できる児童を育てる指導の工夫」を掲げ、全教科・領域において、基礎的・基本的知識や技能の習得と併せて、活用力向上を目指した授業実践を行ってきた。特に、「判断し、表現する」力の育成に重点を置き、児童の実態に応じた具体的な手立てを考え、様々な教科での授業実践を行った。また、授業研究会を通して、「3つの知の活用の構図」「活用力を育成するための単元構想」というキーワードで「活用力」の中味とその授業づくりのイメージについて共通理解を図ることができた。

これらの実践により、自分の考えを書いたり、相手に自分の考えを伝えたりする場面では、積極的に活動する児童の姿が多く見られるようになった。このことは、学習アンケートの結果としても表れている。

しかし、まだ、児童が主体的に課題に関わり、自ら考えたり、友だちの考えを受け止めて自分の考えを表現したりする面においては課題も残る。課題提示の仕方や、見通しの持たせ方に工夫改善の余地がある。

これらのことから、本年度は、主体的に物事に関わるための手立ての充実を図り、自ら課題解決に向かう授業の構想を中心に授業の工夫改善を行っていきたいと考える。

3 研究の目標

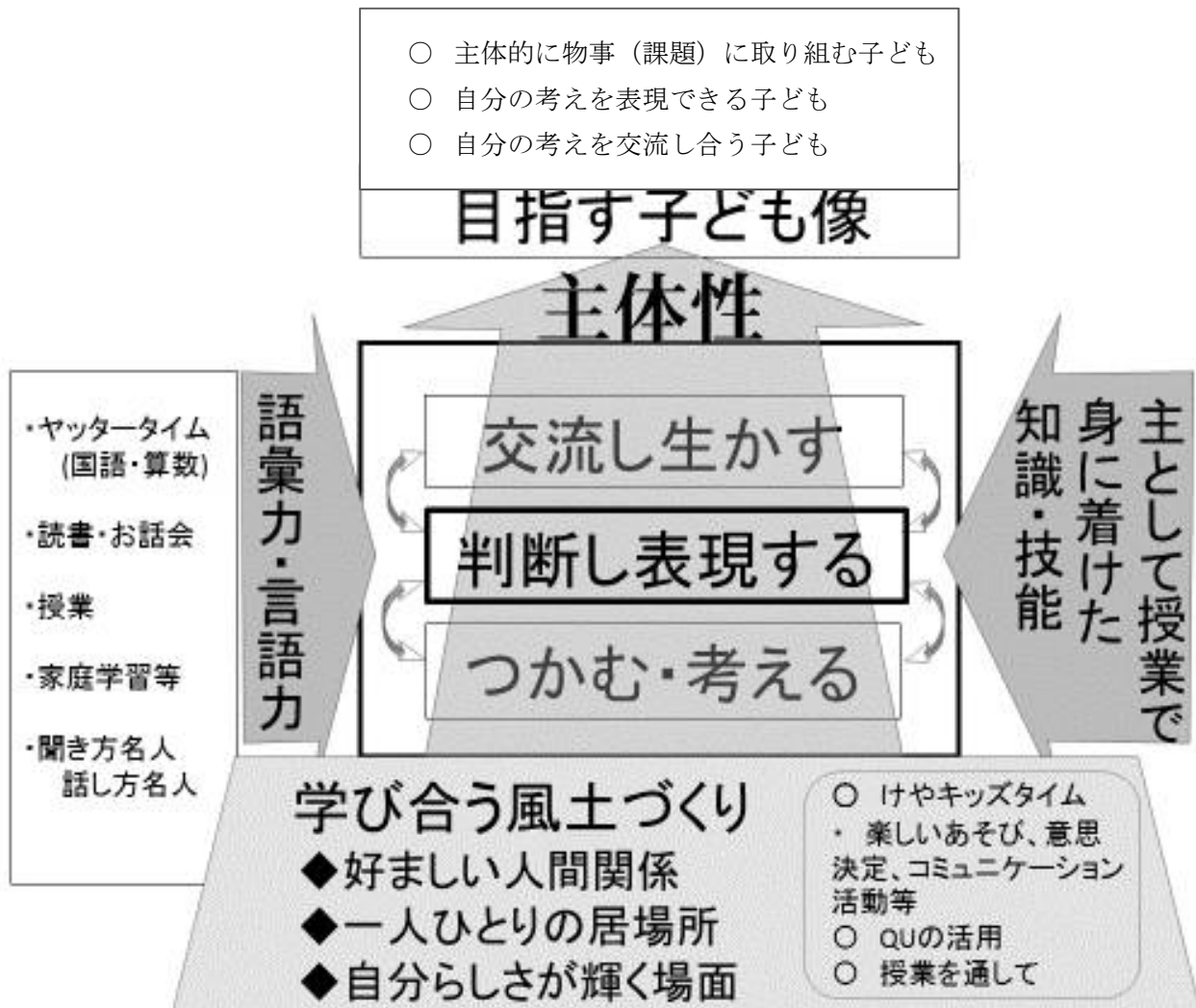
自ら主体的に学び、考え、自分の考えを豊かに表現できる児童を育てていくための指導方法の在り方を探る。

4 研究の構想

(1) 研究の構想について

【須古小の捉える「活用力」とは…】

主体的に物事にに関わり、身につけた知識や技能を使い、自分の考えや思いを表現する力



本校では、28年度まで、道徳や学級活動、特別活動を通して人権教育に取り組んできており、友だちの考えを受け止め、自他の違いを認め合う風土が培われている。昨年度までの積み上げを切にしながら、学び合う風土作りを土台として、活用力の向上を目指した授業づくりを行っていく。

児童が身につけた知識・技能を活用して、「つかむ・考える」活動、「判断し表現する」活動、「交流し生かす」活動を効果的に仕組むことで、児童の主体性を育てていきたい。特に、2年目である今年度は、昨年の課題を考え、主体的に物事にに関わるための手立ての充実を図り、自ら課題解決に向かう授業の構想を中心に授業の工夫改善を行っていきたいと考える。

(2) 「判断し表現する」活動とは

児童は、「思考するために判断する」また、「判断するために思考する」と言うように、常に、思考と判断を様々な学習過程において同時進行で繰り返し行っている。思考と判断は切り離せないものである。そのように考えると、まずは、自分の考えをもつことから始まり、思考・判断を繰り返しながら、その結果としての自分の考えや思いを表現することこそ、本校が捉える「判断し表現する」活動である。以下、授業での具体的な取り組みについて実践し検討を加えていく。

【判断するとは…】

問題解決に必要な情報を選択し、解決方法を評価・選択・決定する働きや思考を支え方向付けていく働き

児童の活動	授業での具体的な取り組み
○ 思考し、見通しをもつ	○ 多様な考えをもてる教材・題材の設定 ○ 意欲をもてる問題・課題の提示 ○ 既習事項をふり返られるような問題提示、学びの足跡残し等の手立て（掲示・ノートづくりなど） ○ 思考・判断を助けるヒントの準備
○ 根拠をもとに選ぶ（決定する） ○ 比べて吟味する	○ 選択する場の設定 ○ ゴールの明確化 ○ 思考の視覚化…付箋の使用、ワークシートの工夫 ○ 必ず考えの理由を言う（書ける）ような話型の提示、ワークシートの工夫

【表現するとは…】

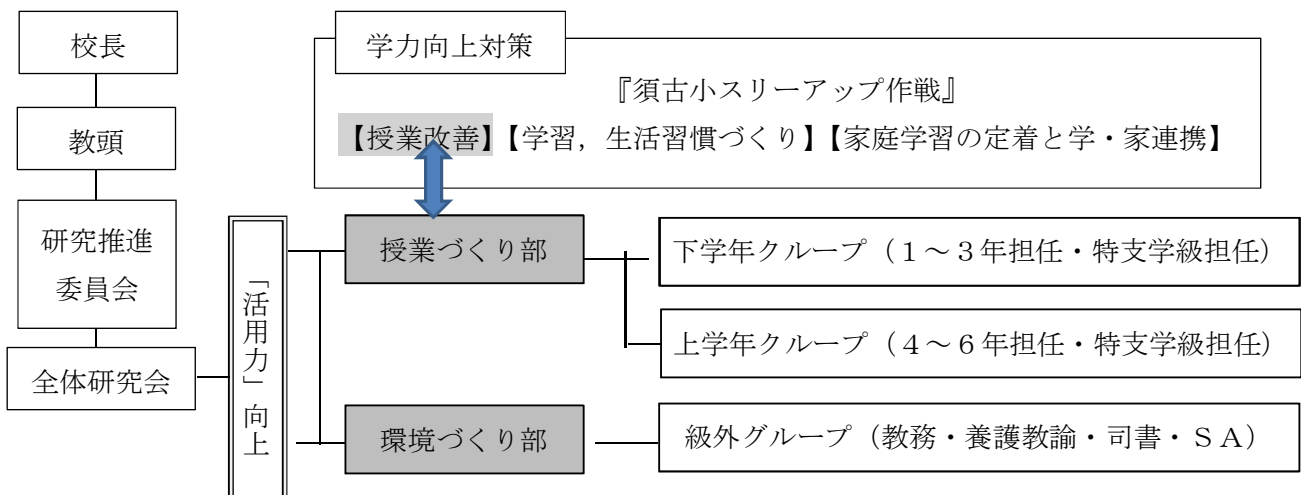
思考・判断の過程や結果を伝えるという意識をもって、言語化し表現する力

児童の活動	授業での具体的な取り組み
○ 自分の考えを表す	○ 自分の考えを言葉、絵や図、文章などで表す ○ 上手く表現できている子の紹介（まねて学ぶ） 〈日常での手立て〉 ○ 語彙力をつける…辞書の活用、言葉集め、連想など ○ イメージを広げる経験 ○ いろいろなものの感想や自分の思いをもつ
○ 相手に伝える	○ 授業の中で伝える場の設定…ペア学習、グループ学習 ○ 相手意識を明確にもたせる工夫 ○ 話型の提示や様々な表現方法を知るための手立て （具体物を使ったり、考えや根拠となる資料を提示したり等）

5 研究の内容と方法

(1) 研究の組織

本校学力向上対策、『須古小スリーアップ作戦』の3つの柱として、「授業改善」「学習、生活習慣づくり」「家庭学習の定着と学・家連携」の取組みに併せ、校内研究では、活用力の向上を目指し、学力向上の3つの柱の中の「授業改善」と連携を図り、研究実践に取組んでいく。



(2) 授業づくりと理論研究

①授業づくりについて

研究2年目となる今年度も、教科を限定せずに進めていく。各教科の特性や言語活動を取り入れた授業づくりや、主体的な学びを引き出す課題設定の工夫など、「活用力」向上につながる効果的な授業の進め方についての研究を行う。

授業づくりについては、「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した授業実践を行い、授業力の向上や授業改善に取り組む。また、「西部型授業」を基軸に据え、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」のある授業スタイルを確立する。更に、児童が自分の考えを説明する場を設定し、互いの考えを尊重し合いながら交流することで、様々な考えに触れる良さを認識し、自らの考えや集団の考えを発展させることのできる授業づくりを目指す。そのために、1単位の授業の中に、

【考える・調べる】段階での判断し表現する活動

【深める】段階での説明する活動(学び合い)

【まとめる】段階でのまとめる活動・振り返る活動

を設定し、重点化をはかる。

②理論研究について

佐賀大学、教育センターや教育事務所と連携を図りながら、講師招聘による活用力向上のための研修を実施していく。また、先進校や実践校視察、公開授業研究会などへ積極的に参加し、理論と実践研究を深める。

(3) 学びを支える環境作り

- ・ 教科に関するコーナーの設置など、校内の環境を工夫する。
- ・ 学習規律の確立、家庭学習の習慣化を図る。
- ・ 「ヤッタータイム」を設定し、基礎・基本の定着をはかる。

(4) 児童の意識調査

- ・ 5月と12月に意識調査を行い、児童の実態や変容を客観的に把握し次年度の研究に生かす。

(5) 学力調査の活用

- ・ 国や県の学力学習状況調査、CRTの結果の分析・考察を通して、児童の実態と学力の変容を分析し、授業づくりに生かす。

6 研究の計画

○今年度予定

月 日	研 修 名	研 修 内 容
4月 4日 (水)	研究推進委員会	本年度の校内研究について
4月 11日 (水)	校内研究	本年度の校内研究について 提案・検討
5月 9日 (水)	校内研究	研究内容についての共通理解 G研修
5月 16日 (水)	校内研究	全体授業研について G研修
5月 23日 (水)	校内研究	G研修
6月 20日 (水)	校内研究	全体授業研準備
6月 27日 (水)	校内研究	全体授業研
7月 18日 (水)	校内研究	全体研を受けて、研究の方向性の確認
8月 1日 (水)	研究推進委員会	指導案の形式・案内について 公開授業の資料について
8月 30日 (木)	校内研究	G研修

9月12日(水)	校内研究	
9月19日(水)	校内研究	
9月26日(水)	校内研究	
10月3日(水)	校内研究	
10月17日(水)	校内研究	
10月31日(水)	校内研究	公開授業に向けて
11月7日(水)	校内研究	公開授業に向けて
11月22日(水)	公開授業	上学年・下学年
1月23日(水)	校内研究	本年度の研究のまとめ
1月30日(水)	校内研究	本年度の研究のまとめ 研究の反省
2月6日(水)	校内研究	次年度の研究の方向付け

○研究の組織

<p>研究推進委員会… 校長、教頭、教務主任</p> <p>研究主任(小田島) 副主任(井上)</p> <p>上学年グループ部長(島ノ江) 下学年グループ部長(井手)</p> <p>環境整備部部長(北川)</p>
--

まなび部	下学年グループ	井手 片渕 小田島 紀伊
	上学年グループ	島ノ江 松浦 井上 成富
環境整備部	北川 溝口 副島(黒木) 江口	

○授業づくりについて

・教科…限定せずに行っていく。活用力ということから考えると、色々な教科・領域と絡めながら単元構想を立てていくことが多い。そのようなことから考えると、全教科・領域に渡り実践していく必要があると考える。

・児童の実態把握について

今年度同様、5月と12月に学習アンケートを行い、児童の実態把握、研究の成果を見る資料として活用する。

○ 研究授業と授業研究会のもちかた・学校訪問の時期との関わり

<1学期>

研究授業 1回 全体研 6月 学校訪問時の代表授業として

(できれば、この時にも 講師の先生に来て頂き、研究を深めていく。)

<2学期>

研究授業 1回 全体研 11月22日(木) 公開授業として

上学年・下学年から